

再エネで地域活性化

東北大学大学院教授 明日香 壽川^{じゅせん}さん

明日香 再エネ(再生可能エネルギー)・省エネの導入拡大で、経済発展と雇用創出と温暖化防止を同時にめざすのが「グリーン・ニューディール」です。

先月、長崎県の西海(さいかい)市に行ってきました。築40年の松島石炭火力発電所を改良して使い続けようという話が進んでおり、現状は近隣自治体も強く反対はしていません。

いわぶち 過疎化が進み仕事もなくなり、病院も鉄道もなくなる悪循環に苦しむ地方は多いですね。

復興の名で火発

明日香 今回、省エネや再エネ事業に投資すると長崎県や西海市でどれだけ全体で雇用が増えるかという具体的な試算を出しました。日本における「グリーン・ニューディール」は、特に地方の雇用、経済を活性化するという意義があります。

いわぶち 私は福島出身

日本共産党参院議員 いわぶち 友^{とも}さん

住民の合意を大事に

新春対談

〈中〉再生可能エネルギー



縦に設置できる太陽光パネルの紹介動画を
見るいわぶち議員(左)と明日香教授

倍以上になります。

明日香 ニューヨーク市の基準でいえば、「グリーン・ウォッシュ」ですね。日本政府が進めている水素やアンモニア混焼もそうですが、石炭火力を温存するのが前提のため、コスト高で実用化が不透明な技術に頼らざるを得なくなりま

す。いわぶち 政府の来年度予算案は、石炭火力の開発・実証等に約250億円、前年比30億円増(アンモニア混焼推進含む)です。

一方、再エネ開発をめぐる、地域住民との合意がうまくいかない。特にメガソーラーや巨大風車など、森林をなくしたり生活環境をまるごと変えたりする計画が各地で問題になっているんです。

明日香 「グリーン対グリーン」とも呼ばれる対立ですね。宮城県の丸森町でも大型ソーラー発電計画が問題になっています。

いわぶち 大きい計画を二つに分けて小規模に見せてアセス(環境影響評価)を逃れていましたね。地元幅広い運動と一体に基準見直しを国会で追及し、アセス対象になりました。

明日香 大型開発でなく、たとえば屋根上の太陽光パネル設置は、まだ1割くらいの建物にしか普及しておらず、増やす余地はたくさんあります。農地の上に屋根状にパネルを設置して、日射量の調節をしながら発電と農業を両立させる「ソーラーシェアリング」も期待できます。技術が発達して今は縦にもパネルを設置できるんです。

理想は市民発電

明日香 重要なのは、地元住民が計画の初期からどれだけ関わる事ができるかです。

いわぶち 計画が進んでから初めて知ったとか、寝耳に水で問題になっているケースをよく聞きます。

明日香 理想的なのは、住民で出資する市民発電です。ソーラーシェアリングも農業に関わる方が主体的に考えていくものです。

いわぶち そういう形の再エネをもっと増やさなければですね。北海道十勝のバイオマス発電の調査に行ったことがあります。たくさんいる牛の糞尿(ふん)を発電に使い、使用後は畑に戻して循環させていました。鹿追町では、発電の熱を使ってマンゴー栽培やチョウザメ養殖をしていました。

明日香 そのように地域経済がうまく回る形になってほしいですね。